

◇視聴報告まとめ<2017年1月11日号>◇

テレビ朝日「報道ステーション」

○小池都知事に単独インタビュー

森喜朗氏との確執については「そういうつまらない話はやめましょう」とノーコメント。都議会自民党との対立については「全てが選択肢」とコメント。「党費を支払っていないことについては「3月にそうした節目はもう一度くる」「進退伺を出している身」とコメント
後藤謙次氏はスタジオで「グレーゾーンに身を置くということに主眼がある」、「あらゆる選択肢を自分のところに持っている」、「キーワードは進退伺」と補足した。

○トランプ氏と Twitter

VTR で前島和弘教授(アメリカ政治とメディアに詳しい上智大学教授)「トランプさんは既存のメディアを全く信用していない。記者会見も全くしていないですね。要するに自分の情報をうまくコントロールして、自分が出す情報はツイッターにしておけば、そうすると最初はどこまで意図的だったかは分かりませんが、Twitterをみんな読むようになってTwitterを読んで、それで人々は動くようになっている、トランプさん間違いなく今は気付いていますよね。記者会見をしないほうが実は影響力を保てるんだ、と。多分考えているところがあるんですね。トランプさんはTwitterが生んで育てた大統領でもありますよね」と解説した。スタジオでは後藤謙次氏が「私自身、安倍総理は非常にトランプさんとの日米首脳会談を早期に実現しようと模索しているようなんですが、私はちょっと待ったほうがいいんじゃないかなという気がするんですね。」「トランプ政権の全貌というのは6月くらいにならないと見えてこないですね。そこで初めて外交戦略、例えば中国とはどう向き合うのかロシアとはどうするのか、中東はどうなるのか、というのが見えてからですね。もう安倍さんは一度会ってるわけですから、そこでじっくりトランプさんのやり方、それから行方を見つめた上で日本の外交としてどう対処していくのか、これは日本の国益にも適うんじゃないかなと思いますね」とコメント。「11日に就任前記者会見がある」と富川アナが補足。

2017年1月11日

(検証者所感)

既存のメディアではアジェンダ設定から発信する情報の編集、伝達までの主導権を政治家側がほとんど握れないのに対して、SNS のような新しいメディアであればこれらを政治家側が握ることができる Twitter は自身が登録しなくとも、他人のツイートを閲覧することができるという点で Facebook などの SNS と比べてもインターフェースに優れている。都政そのものよりも政局報道に軸足を置いている印象を受ける小池都知事インタビューが同日に扱われていたこともあり、既存のメディアと新しいメディアの対比が鮮明に感じられた。